

作業活動について ～作業療法士の視点から～

ゆきよしクリニック

作業療法士 清水美穂

作業療法とは？

身体又は精神に障害のある者，またはそれが予測される者に対し，その主体的な生活の獲得を図るため，諸機能の回復，維持及び開発を促す作業活動を用いて，治療，指導及び援助を行うこと

(社)日本作業療法士協会

作業療法士の役割

1. 基本的能力の維持・向上・開発
2. 応用的能力の維持・向上・開発
3. 社会的適応能力の維持・向上・開発
4. 環境資源の調整, 指導
 - ①住宅改造などの環境調整
 - ②自助具, 義肢・装具などの一部製作を含む適合訓練
 - ③家族調整・指導

(社)日本作業療法士協会

作業と活動

仕事, 労働, ときに使役的ニュアンスを含んでいる

- 「**作業**」=work, operations

「肉体または精神を通じてある具体的(物理的・生理的または心理的)結果を産出すること」(広辞苑第2版)

「肉体や頭脳を働かせて仕事をする事. また, その仕事」(広辞苑第5版)

「人および機械などの作業手段が対象体のある状態から他の状態へ変えるために行う活動」(平凡社, 世界大百科事典)

芸術活動やクラブ活動など行為や行動することを意味している

- 「**活動**」=activity, action

「①はたらき動くこと. いきいきと行動すること. ②活動写真の略」(広辞苑第5版)

作業という言葉だけでは労働的な印象が強いため、日本作業療法士協会では「**作業活動**」という用語を採用している

「ひととくらし」の視点による 作業活動の分類

- ①日常生活
- ②仕事
- ③遊び・余暇
- ④社会生活
- ⑤休養・熟成

①日常生活

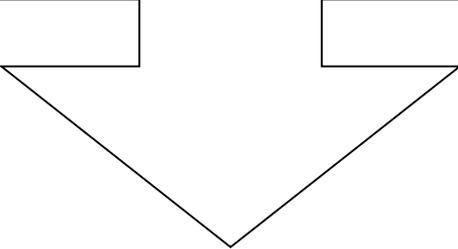
～いきる・くらす～

身辺処理—日々生きるのに必要な身の回りの処理

食事, 排泄, 睡眠, 整容, 衛生, 更衣, 身辺の移動など

生活管理—くらしに必要な物や事の管理

金銭, 時間, 貴重な物品, 服薬, 安全, 健康などの管理



生理的安定, 自立(自律)の基礎

自尊心の獲得・回復

②仕事

～はたらく・うむ～

職業的活動—生活必需品の生産
学業, 家事, 育児—経済的・精神的自立

自己充足・自己実現の実践

③遊び・余暇

～あそぶ・つくる・たのしむ～

原初的遊び—多様性・適応を支える遺伝的行動

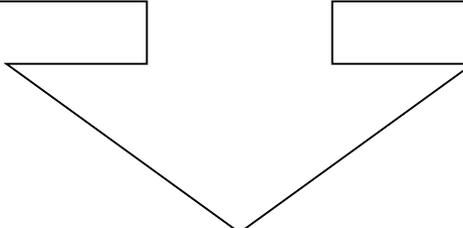
身体遊び, 探索遊び, ごっこ遊びなど

余暇活動—労働とのバランス, 精神的再生産

趣味・娯楽, スポーツ, 創作・表現, 知的活動など

社会的活動—社会的欲求充足, 社会形成

ボランティア, 宗教活動など



生活のゆとり うるおい

所属による安心感

④ 社会生活

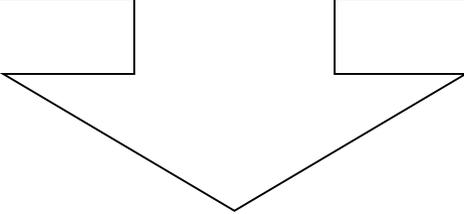
～つながる・ひろがる～

生活拡大—移動, 社会資源の利用

交通機関の利用,
公共機関や銀行など社会資源の利用など

情報伝達—コミュニケーション, 通信

電話, 手紙, 電子メールなど



円滑な社会生活

⑤ 休養・熟成

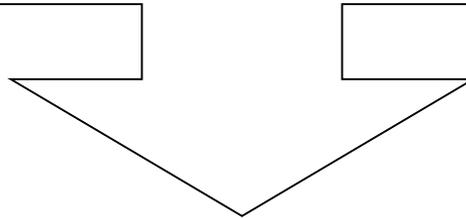
～やすむ～

休養—生理的，精神的にエネルギーを補充

目的のあることをせず過ごす，散歩，軽い眠りなど

熟成—学び産みだしたものを消化，熟成

睡眠，休息，間をとるなど



生理的再生産，精神的再生産

精神的消化

作業活動が用いられる過程

対象者

個人性

ライフサイクルとステージ 暮らし(生活)のスタイル
個人的意味・価値・能力
身体機能の個人的特性 精神機能の個人的特性

意図

環境の特性

物理的・人的環境
社会・文化的環境
社会資源など
治療援助の特性

環境

作業

作業特性

工程, 道具, 材料
必要とされる能力,
社会的意味など

ひと

ひとと作業

発達, 生活
身体機能との関連
精神機能との関連

治療援助の特性

目的としての利用
手段としての利用
理論的な背景

作業の選択

適応・修正

段階付け

作業を行う

個人の暮らしと生

まとめ

- 対象者を把握する
- 意図(目的)を明確にする
- 作業活動の特性を把握する

作業をすることは、自然の最も優れた医師であり、それが人間の幸福についての条件である

(Galen, A.D. 130~201)

